



株式会社エスプール

データドリブン経営を支える大規模なデータ分析基盤を構築

kintoneやBox、基幹システムなどを横断したデータ分析を実現

株式会社エスプールは、「アウトソーシングの力で企業変革を支援し、社会課題を解決する」というミッションを掲げ、人材派遣および障害者雇用支援を中核に、企業や自治体に向けた各種BPOなど多彩なサービスをグループの事業会社を通じて提供している。同社では、各事業会社の現場において、kintoneをはじめとするSaaSの導入が急速に進む状況を受け、それらサービスや基幹システムに蓄積されたデータを横断的に分析し、ビジネス上の意思決定に活かしていくための環境を整備してきた。しかし、人手による各システムからのデータ収集・加工の作業には多大な工数がかかることが課題に。そこで、「ASTERIA Warp」を導入してデータ連携の作業を自動化。大幅な工数削減を実現し、より新鮮なデータの活用が可能となった。

導入背景

- データドリブン経営を実現するため、各種SaaSや基幹システムに蓄積されるデータを集約し、横断的に分析していける環境の構築が求められていた
- データ収集・加工の作業を人手に頼っており、工数が増大する一方、作業ミスの懸念があった
- 基幹システム周辺の連携処理を別のEAIツールで実施してきたが、実装内容が複雑化し、改修等の保守も困難に。非エンジニアでも開発ができるEAIツールを新たに検討することに

選定ポイント

- ノーコードの開発環境で、システム連携の仕組みをスピーディーに実装。保守フェーズでの機能追加や改修にも柔軟に対応
- 多様なシステム連携を容易にするアダプターを豊富に用意。現行システムはもちろん、将来的に導入するサービス間の連携ニーズにも対応可能
- 実行中の連携プロセスが障害発生により停止した際も、中断された箇所から再実行・リカバリーが行えるチェックポイント機能が実装されている

効果

- kintoneなどからのデータを基幹システムのデータとともに、Tableauが参照するデータ分析基盤へと自動的に集約。データ反映を最短1時間のサイクルで行い、より鮮度の高いデータ活用を実現
- 月末に2日間、16時間をかけて人手で行っていたデータ収集・加工の作業が不要に。作業工数や人的コストを大幅削減
- チェックポイント機能を活用し、連携プロセスで障害が発生した際のリカバリーの工数がゼロに。データ削除や誤修正のリスク回避に成功

システム概要

派遣事業におけるスタッフの入退職にかかわる分析のためのデータ連携例



物流部門でのデータ連携例



ユーザーのひと言



当社ではASTERIA Warpの導入後、計147本の連携処理を実装・運用してきました。現在、開発を担当しているのは、もともと人材派遣事業に携わっていた担当者です。プログラミングは未経験でしたが、現在は1つの連携処理を1〜2日程度といったスピード感で、実装できるようになっています。ASTERIA Warpはドキュメント類も非常に充実していて、新たな仕組みを実現するためのコンポーネントも容易に見つけ出すことができ、随時発生する連携ニーズにも俊敏に対応していける点が大きな魅力です。

CTO CMO 執行役員 アルゴサイエンス事業部 事業部長 青柳 賢太郎 様

User Profile



所在地：東京都千代田区外神田1-18-13 秋葉原ダイビル6F

会社概要：人材派遣・障害者雇用支援などのサービスを行うエスプールグループを持株会社として統括

業種：サービス業

URL：https://www.spool.co.jp/